

特定漁港漁場整備事業計画書

1 目的

目 的

(1) 地域の特徴

本地区は、鹿児島県の最北端長島町の北東部にあり、東は八代海、西は長島海峡に面するとともに、伊唐島及び諸浦島に挟まれた海域は、外海水と内海水の引き起こす大きな潮位差によって、養殖業においては最適な環境が形成されるとともに、沿岸漁業にも恵まれた自然条件を有している。

長島町は農業と水産業が基幹産業で、一次産業従業者は約4割を占めており（平成27年国勢調査）、以前は離島地域であったが、昭和49年の黒之瀬戸大橋の開通によって本土と陸路で結ばれ、これを契機に流通体制が改善され、このうち、水産業においてはブリの産地として本格的に歩みだした。

薄井漁港を拠点とする東町漁協では、恵まれた自然環境を活かし、ブリを主体とした養殖漁業に取り組み、その生産量は単一漁協としては日本一を誇り、県内外はもとより、北米やEUなど海外へも輸出している。

(2) 水産業の沿革と現状

本地区は、16の漁港・港湾から漁獲物を集荷するなど県内屈指の陸揚量を誇り、県北部の流通拠点漁港として、また養殖漁業の生産拠点として位置づけられ、「獲る漁業から育てる漁業」への先駆けとして、また、単一漁協における日本一のブリ生産拠点として躍進している。

東町漁協は、昭和63年に本漁港の竹島地区に養殖ブリの処理加工施設、平成6年には新加工場が整備され、平成10年には養殖ブリの加工場として全国で初めてHACCP認証を受け、ブランド「鰯王」は国内はもとより北米やEUなど、世界24ヶ国へ輸出を行っている。

鹿児島県では平成30年3月に、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」を策定・公表し、県産農林水産物の輸出額を平成28年度の約155億円から令和7年度には約300億円に倍増させる目標を掲げている。その中で、水産物については平成28年度約69億円から令和7年度には約100億円から110億円とされており、このうち、養殖ブリは現状で水産物輸出額の約9割を占める重要な魚種であることから、安定した生産・供給と輸出拡大が期待されている。

(3) 漁港漁場整備の沿革と役割

本地区は、昭和29年10月に第3種漁港の指定を受け、第1次漁港整備長期計画から漁港修築事業にて、旧港地区及び新港地区の係留護岸を皮切りに漁港施設整備を開始した。

その後、第5次計画までに旧港整備を完了し、第6次計画からは養殖ブリ増産に向けて新港地区及び竹島地区の整備に着手、第8次計画から竹島地区の利便性向上に向けて竹島大橋の整備を開始した。平成15年度までの間に外郭、係留及び水域の基本施設のほか各種機能施設の整備が進められ、現在の港形が整った。

本地区における漁港施設整備により、地域の基幹産業である漁業、水産加工業を支えるとともに、流通拠点漁港として地域の発展を支えている。

(4) 当該事業計画の目的

1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①養殖ブリ加工拠点である竹島地区の整備

竹島地区は、国内で初めてHACCPを取得した養殖ブリ加工場があり、国内をはじめ海外へ輸出量を伸ばしてきたが、施設の老朽化が進んでおり、加工処理能力も不足している状況である。

また、現状の荷さばき所と加工場は臨港道路で分断され、水産物運搬の際の安全確保や、衛生管理面の問題を抱えている。

このため、加工場の新設にあわせて臨港道路の付替や用地を整備し、既設荷さばき所と加工場を一体化することで、水揚げから加工・出荷まで一貫した衛生管理対策による流通体制を構築し、養殖ブリ類等の更なる輸出促進を図る。

②水産流通拠点である新港地区の整備

新港地区は、アオサ・ヒジキや圏域内の沿岸物が集約されると共に、加工向け以外の養殖ブリも取り扱う県内屈指の流通拠点であるものの、-3.0m岸壁や背後荷さばき所、臨港道路は高潮の影響により浸水する状況である。

また、養殖餌積込用浮棧橋は能力不足により、積込待ちが生じ作業効率が低下する原因となっているほか、荷さばき所が手狭なため、アオサの選別や集荷は野天で作業せざるを得ない状況である。

このほか、漁船の休憩岸壁が不足しており、防波堤等に係留を余儀なくされるほか、漁具保管修理施設用地も不足しており、養殖生け簀の補修において、生け簀の修理待ちが発生するなど、漁業活動に支障を来している。

以上のことから、-3.0m岸壁及び道路の嵩上改良やそれに伴う南側浮棧橋の付替改良、養殖餌用浮棧橋の大型化、荷さばき所改良によるアオサ・ヒジキの流通拠点を確保する。また、不足する係留施設及び漁具保管修理施設用地を確保するため、諸浦地区に新たに外郭、水域、係留、輸送施設及び用地の整備を行い、安全かつ効率的な作業環境を確保し、水産業の競争力強化を図る。

③水産物の高度な衛生管理体制の構築を図るための整備

新港荷さばき所で取扱う、沿岸物、加工向け以外の養殖ブリについては、高潮や鳥類侵入による品質低下を改善するため、衛生管理型荷さばき所への改良を行い、水産物の品質を維持し、魚価の安定を図る。

2) 災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

新港地区-3.0m岸壁については耐震性能が十分でないため、嵩上げ改良とともに耐震化を図ることで、被災後の地域水産業の早期回復のための拠点機能を確保する。

2 施行に係る区域及び工事に関する事項

(1) 区域に関する事項

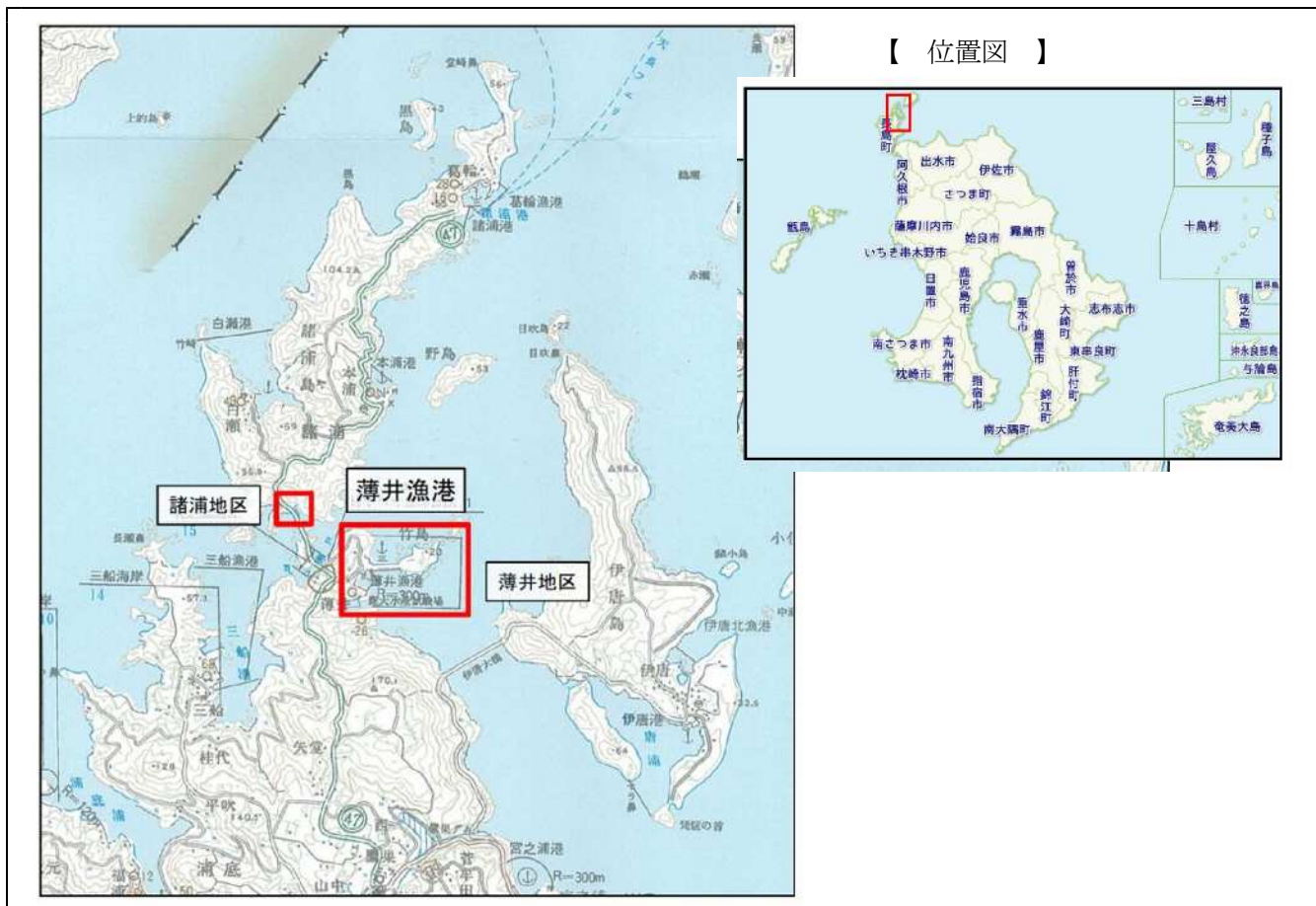
イ 区域名

区域名	薄井地区、諸浦地区
-----	-----------

ロ 所在地等

都道府県名	鹿児島県	関係市町村名	出水郡長島町
地域指定	過疎、山村、半島、辺地		
整備対象漁港名	薄井漁港	整備対象漁場名	—

ハ 位置図



写真等



航空写真 平成29年11月撮影



薄井地区
平成30年10月撮影



諸浦地区 平成30年11月撮影



・新港地区 荷さばき所の冠水

高潮による冠水で、水が退いた後に念入りな洗浄作業を要するなど、浸水対策が必要であるとともに、付加価値を高めるための衛生管理対策が必要である。

平成27年9月撮影



・新港地区 臨港道路の冠水

高潮により臨港道路が冠水し、輸送作業に支障をきたしている。

平成27年9月撮影



・竹島地区

荷さばき所背後臨港道路の輻輳状況

臨港道路を挟んだ加工場へ搬出するため、搬出車両と通行車両が交錯し危険である。

また、通行車両の排気ガスや鳥の糞害に晒され衛生管理上も問題がある状況である。

平成27年11月撮影



・新港地区 浮棧橋の養殖餌準備状況

浮体の規模が小さく積込作業に時間を要するため、漁船の待機が生じている。



令和元年10月撮影

薄井漁港本島における沿岸漁業の陸揚げ、荷さばき状況



プラスチック箱で陸揚げ



台車で運搬



スポンジの上で選別



計量



陳列



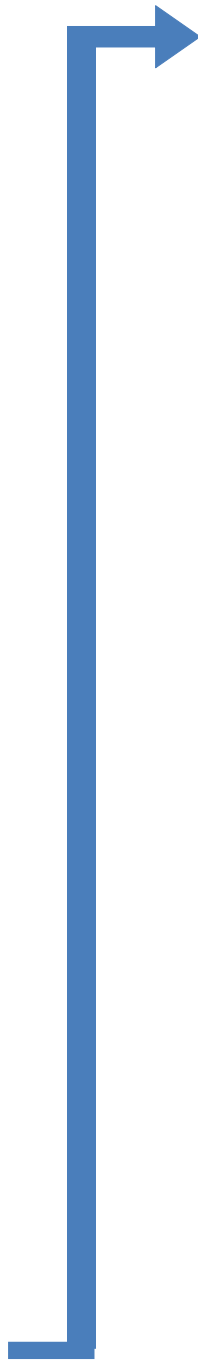
陳列場所で施氷



入札



出荷



薄井漁港本島における活魚の陸揚げ、荷さばき状況



タモ網で陸揚げ



天秤棒で計量



水槽へ搬入



活魚車で出荷

薄井漁港本島における養殖ブリ（ラウンド出荷）の陸揚げ、荷さばき状況



船倉からタモ網で陸揚げ



エプロン上の選別台へ



選別して計量へ



計量



箱詰め作業



施氷



トラックに搬入し出荷



薄井漁港竹島における養殖ブリの陸揚げ、荷さばき状況



薄井漁港新港におけるアオサの陸揚げ、箱詰め状況



ニ 当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針

当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針

1. 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

1) 養殖ブリ加工拠点である竹島地区の整備

① 現況、課題

竹島地区の水産加工場は平成6年に建設され、築後27年が経過し、老朽化が著しく、また、需要に対する加工処理能力が不足している状況である。また、荷さばき所から加工場の間に臨港道路を挟むため、輸送車両やフォークリフトの輻輳による接触事故の危険性や、屋根が無く野天での運搬となるため、交通車両の排気ガスや鳥の糞害に晒されており、衛生管理面でも問題を抱えている。

② 整備方針

現加工場背後の地山を開削することで、臨港道路の付替えと用地を確保し、既存荷さばき所と一体化した加工場を新設し、加工生産量の増大及び水揚げから加工・出荷まで一貫した衛生管理対策による品質の向上を図ることで、養殖ブリの輸出強化を目指す。

2) 水産流通拠点である新港地区の整備

① 現況、課題

新港荷さばき所は、圏域内の漁港から沿岸漁業の直接陸揚げや陸送にて水産物が集約されると共に、加工向け以外の養殖ブリ等も取り扱う県内屈指の流通拠点であるものの、-3.0m岸壁や背後荷さばき所、臨港道路は高潮の影響により浸水する状況であり、作業待ちの発生や衛生面の対策が急務である。

また、養殖餌準備で利用している北側浮棧橋は一度に3隻しか係留できず、浮体幅も狭いためフォークリフトの作業スペースが不足し、養殖餌の積み込み待ちが生じているうえ、大潮干潮時には連絡橋が急勾配になり、フォークリフトの走行に支障を来していることや、アオサ・ヒジキの収穫期（1月～5月）は利用が輻輳し、作業環境の著しい低下を招いている。

本地区のアオサ・ヒジキの集荷金額は平成22年までは3億円前後であったが、近年では4億円を超える金額となっており、安定経営の大きな支えとなっている。しかし、荷さばき所が手狭なため、水揚げから選別、箱詰めを野天で作業しており、作業性や衛生管理に問題がある。

さらに、流通拠点として必要な漁船の休憩岸壁が不足しており、防波堤等に係留を余儀なくされるほか、漁具保管修理施設用地も不足しており、養殖生け簀の修理において、生け簀の陸揚げ待ちが発生するなど、漁業活動に支障を来している。

② 整備方針

浸水対策として-3.0m岸壁及び道路の嵩上改良を行うと共に、嵩上げ改良に伴い南側浮棧橋の付替改良を行う。北側浮棧橋については、フォークリフト作業に必要な通路幅と面積、そして十分な係船延長を確保する必要があるが、港内には増設適地が無いことから、既存の浮棧橋を撤去し新たに規模を大型化した浮棧橋を新設する。

また、荷さばき所の改良によりアオサ・ヒジキの流通拠点を確保すると共に、不足する係留施設及び漁具保管修理施設用地を確保するため、諸浦地区に新たに外郭、水域、係留、輸送施設及び用地の整備を行い、安全で効率的な作業環境を確保し、水産業の競争力強化を図る。

3) 水産物の高度な衛生管理体制の構築を図るための整備

① 現況、課題

消費者の食に対する安全・安心に対する要請が高まるなか、現在の新港荷さばき所は屋根と柱だけの構造であり、選別作業は屋内で行われるものの、高潮による浸水被害や鳥糞の付着が懸念され、水産物の品質の維持、管理に課題を抱えている。

② 整備方針

新港荷さばき所は、圏域の沿岸物及び加工向け以外の養殖ブリを取り扱う地域の重要な流通拠点であり、危害要因を防止し衛生管理体制の向上を図る必要があることから、高潮浸水対策のための荷さばき所の嵩上げ改良及び防鳥対策を行う。

2. 災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 現況、課題

水産業は本地区の主要産業であり、大規模な地震や津波が予想されるなか、新港荷さばき所前面の岸壁は耐震性を有しておらず、被災後に水産物の生産・流通活動全体が滞る恐れがある。このことから、水産物の生産・流通に与える影響を最小限にとどめ、早期復旧を可能とする対策が急務である。

② 整備方針

新港-3.0m岸壁を耐震化するとともに、事業継続計画（BCP）を策定することで、被災後の地域水産業の早期回復のための拠点機能の確保を図る。

ホ 整備対象漁港及び整備対象漁場の現況及び将来見通し
(現況)

令和元年漁港港勢

整備対象 漁港名 薄井漁港 (第3種)	属地陸揚量 11,415 ト	属地陸揚金額 8,536百万円	属人漁獲量 5,153 ト
	登録漁船隻数 177 隻	利用漁船隻数 1,252 隻	漁船以外利用船舶隻数 20 隻
	主な漁業種類 ブリ類・マダイ養殖、定置網、刺網		主な魚種 ブリ類、マダイ、アジ類
整備対象 漁場全体	受益戸数(受益者数) - 戸(- 人)		登録漁船隻数 - 隻

(将来見通し)

目標年：令和13年

整備対象 漁港名 薄井漁港	属地陸揚量 13,483 ト	属地陸揚金額 11,784 百万円	属人漁獲量 5,059 ト
	登録漁船隻数 176 隻	利用漁船隻数 1,238 隻	漁船以外利用船舶隻数 20 隻
整備対象 漁場全体	受益戸数(受益者数) - 戸(- 人)		登録漁船隻数 - 隻

将来見通しの考え方

【属地陸揚量】

増加傾向であり、既設加工場の改築に伴う養殖ブリ加工品の増産も見込まれることから、陸揚量は今後、上昇傾向になるものと推定される。推定量については、加工場の完成に伴う増産と令和元年の陸揚量に平成20年度以降の陸揚量上昇率を考慮した結果に基づき算定した。

【属地陸揚金額】

属地陸揚量の傾向と比例し、今後も上昇傾向になるものと推定される。なお、推定金額については、加工場の完成に伴う増産と平成20年度以降の上昇率を考慮した結果に基づき算定した。

【登録漁船隻数】

平成20年度以降、前年対比で微増減を繰り返しており、相対的にほぼ横ばいの状態が続いていることから、目標年次における登録漁船数は、直近3ヶ年の平均と推定した。

【利用漁船隻数】

平成20年度以降、減少傾向にあるが、目標年次における利用漁船数は、過去3年間の平均値程度と算定した。

【漁船以外利用船舶隻数】

近年、前年度対比で増減を繰り返しており、相対的にほぼ横ばい状態が続いていることから、目標年次における漁船以外の利用船舶隻数は現況と同程度と推定した。

(2) 工事に関する事項**イ 主要施設の種類、規模及び配置等
(漁港施設)**

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者名
鹿児島県	薄井漁港	第3種	本土	鹿児島県	鹿児島県
計画施設	計画工事種目		単位	計画数量	備考
外郭施設	防波堤(新設)		m	30	諸浦地区
水域施設	-3.0m泊地(新設)		m ²	5,740	諸浦地区
係留施設	浮棧橋(撤去・新設)		基	1	新港地区
	浮棧橋(改良)		基	1	新港地区
	-3.0m岸壁(改良)		m	230	新港地区
	-3.0m岸壁(新設)		m	123	諸浦地区
	浮棧橋(新設)		基	1	諸浦地区
輸送施設	道路(改良)		m	600	新港地区
	道路(改良)		m	280	竹島地区
	道路(新設)		m	437	諸浦地区
漁港施設用地	用地(新設)		m ²	6,190	竹島地区
	用地(新設)		m ²	8,975	諸浦地区
	用地護岸(新設)		m	21	諸浦地区

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者名
鹿児島県	薄井漁港	第3種	本土	東町漁業協同組合	鹿児島県
計画施設	計画工事種目		単位	計画数量	備考
漁獲物の処理・保蔵及び加工施設	加工場(新設)		式	1	竹島地区
	荷さばき所(改良)		式	1	新港地区

ロ 工事の着手及び完了の予定時期

着手(予定)年度	平成 30 年度	完了予定年度	令和 13 年度

※平成30年度～令和3年度は水産流通基盤整備事業(一般)で実施

ハ 計画平面図

計画平面図	別紙参照

3 事業費に関する事項

計画事業費	5,679(百万円)

4 効果に関する事項

1. 主要な水産施策別の事業効果
<p>1. 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既存荷さばき所と一体化した加工場を新設し、加工生産量の増大及び水揚げから加工・出荷まで一貫した衛生管理対策による品質の向上を図ることで、養殖ブリの輸出強化が見込まれる。 ○ 諸浦地区に、新しく係留施設ができることにより、漁船と漁船の間に十分な余裕を確保して係船できるようになり、漁船同士の接触が無くなり漁船の耐用年数の増加が期待できる。また、出港や帰港時の係船時間の短縮を図ることができる。 ○ 新港地区荷さばき所については、浸水対策も講じた上で衛生管理型荷さばき所への改良を行うことで、水産物の品質と付加価値向上を図り、漁港の生産・流通機能の強化が見込まれる。 <p>2. 災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新港地区の-3.0m岸壁を耐震化するとともに、事業継続計画(BCP)を策定することで、被災後の地域水産業の早期回復のための拠点機能の確保が図られる。

2. 地域に与える影響			
<p>本事業の実施により、産地加工品の生産性向上や衛生管理対策が図られ、輸出量の増加や水産物流通の安全性が確保される。そのことにより、水産加工業を始めとした地域水産業への経済波及効果が見込まれる。</p>			
3.費用対効果分析結果			
社会的割引率	4.0 %	投資期間	平成30年 ~ 令和13年
現在価値化の基準年度	令和3年	施設の耐用年数	(漁港施設)50年(荷さばき所加工場)38年

貨幣化による分析結果	
貨幣化した効果項目	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物生産コストの削減効果 ・漁獲物付加価値化の効果 ・生命・財産保全・防御効果
総便益額B	14,025 百万円
総費用額C	4,614 百万円
費用便益比率 (B/C)	$14,025 / 4,614 = 3.04$
参考	純現在価値：(B-C) 9,411 百万円
	内部収益率：(IRR) 10.6 %
4.事業の定量的・定性的効果（貨幣化が困難な効果）	
<ul style="list-style-type: none"> ・就労環境の改善により、労働意欲の向上が図れる。 ・外郭施設の整備により、荒天時の漁船保全に対する安心感が得られる。 ・当該事業により漁港の機能を強化することで、地域産業への波及効果が期待される。 	

5 環境との調和に関する事項

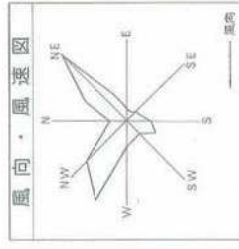
環境との調和に関する事項
<p>当地区ではブリの養殖や藻類の養殖が行われており、施設整備時ではICT施工の導入による作業効率化や建設廃材を再生利用するなど環境負荷の削減に努める。</p> <p>また、新設する加工場では太陽光パネルやLED照明、電動フォークリフトの導入など脱炭素化の取組を検討する。</p>

6 他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設	施設規模・内容	本事業との関係	備考
加工場内設備	加工品製造機器ほか1式	竹島地区に整備する加工場内の機器設備を整備する。	事業名 浜の活力再生・成長促進交付金 事業主体 東町漁業協同組合 整備年次： 整備年次：R6年～R8年

漁港漁場整備長期計画
薄井漁港水産流通基盤整備事業(特定)計画平面図

漁港番号	4930015	種別	第3種	所管本土	鹿兒島県	事業主体	鹿兒島県	管理者	鹿兒島県	施行場所	鹿兒島県出水郡長島町薄井
------	---------	----	-----	------	------	------	------	-----	------	------	--------------

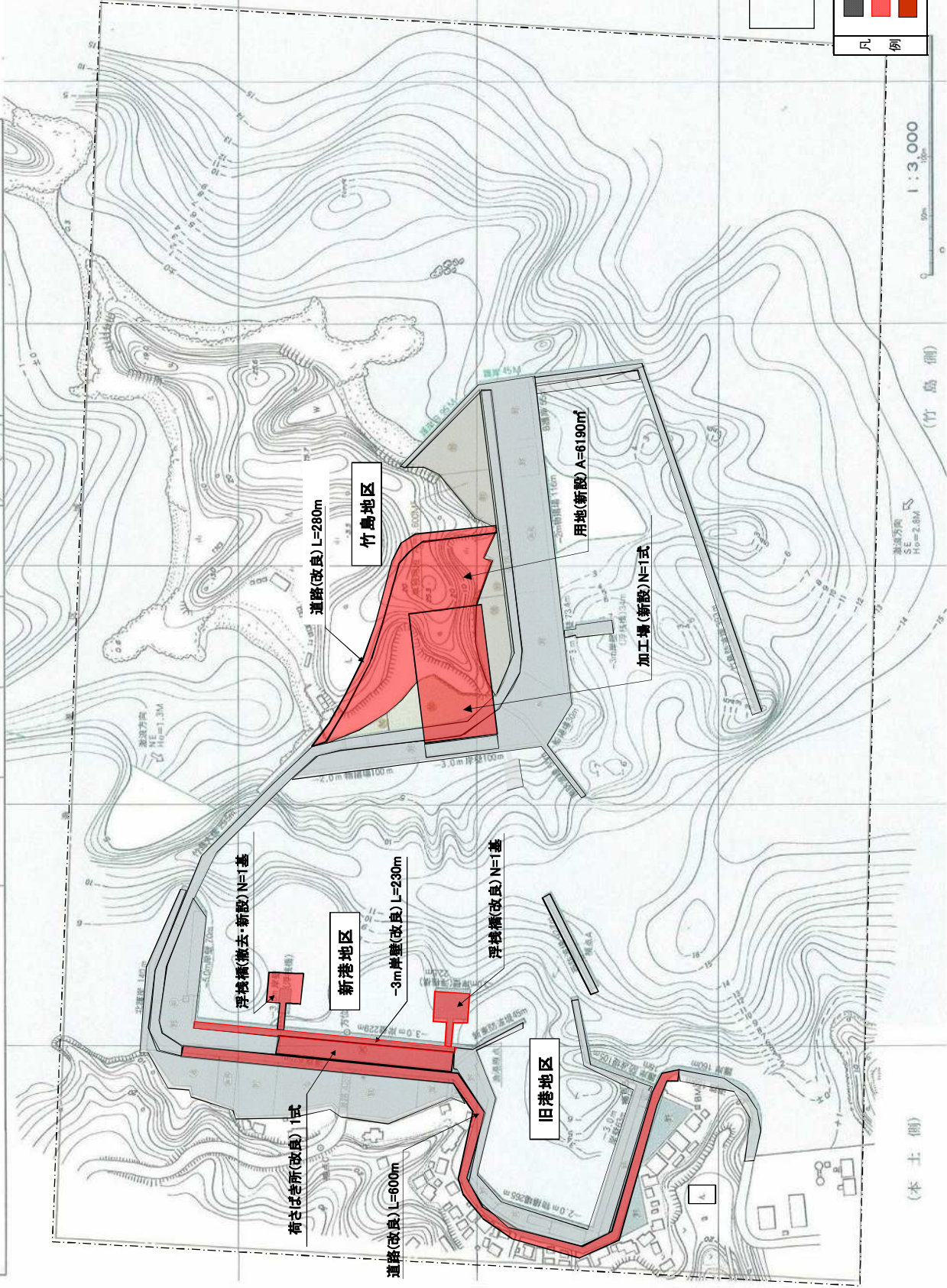


潮位図

最高潮位	+4.50
高潮位	+3.50
平均潮位	+2.00
低潮位	+0.50
最低潮位	-0.50

凡例

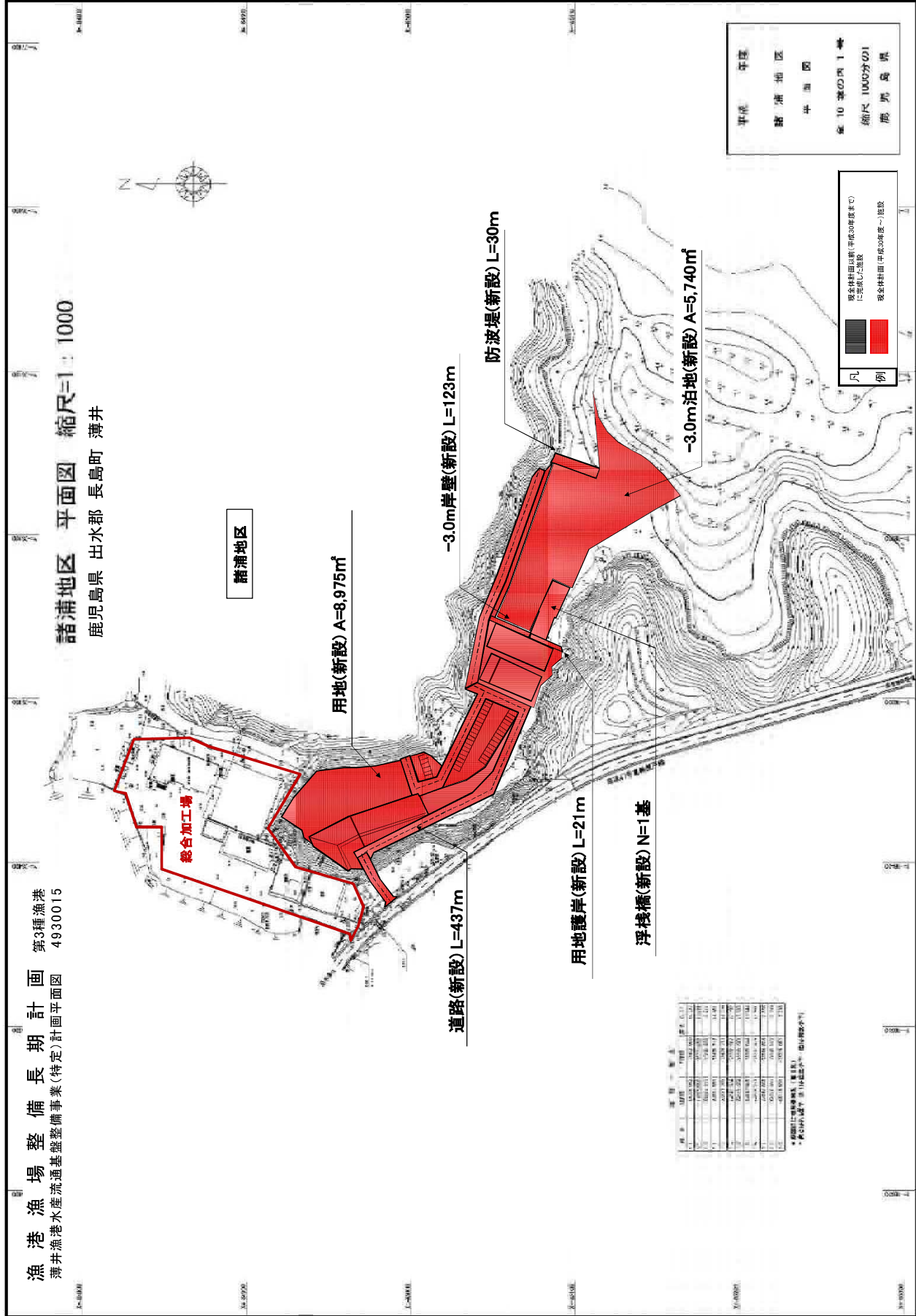
- 現全体計画以前(平成30年度まで)に完成した施設
- 現全体計画(平成30年度~)施設
- その他の事業(令和年度~)施設



漁港漁場整備長期計画
薄井漁港水産流通基盤整備事業(特定)計画平面図
第3種漁港 4930015

諸浦地区 平面図 縮尺=1:1000

鹿児島県 出水郡 長島町 薄井



漁港全景等の写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県
-----	----------------	-----	------	----	------





魚港全景等の写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県
-----	----------------	-----	------	----	------




平成 29 年 9 月 30 日 撮影


整備理由説明写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県	
漁港概略図						
写真欄① (対象工種名)						
						
撮影年月日 平成 23 年 9 月 29 日						
(コメント) 高潮による冠水で、水が退いた後に念入りな洗浄作業を要するなど、浸水対策が必要であるとともに、付加価値を高めるための衛生管理対策が必要である。						

整備理由説明写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県
写真欄② (対象工種名)	臨港道路(改良)	写真欄③ (対象工種名)			
					
(コメント) 高潮により臨港道路が冠水し、輸送作業に支障をきたしている。		撮影年月日 平成 23 年 9 月 29 日			
		撮影年月日 平成 27 年 10 月 10 日			
荷さばき所から道路を挟んだ加工場へ搬送する際、道路を通行する車両と交差するため、危険であるとともに、排気ガスや鳥の糞害に晒される恐れがある。					



整備理由説明写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県	
写真欄④ (対象工種名)	竹島地区 加工場(新設)	写真欄 (対象工種名)				
						
撮影年月日 令和 3 年 7 月 29 日						
(コメント)	加工場は老朽化により生産性向上が難しい。また、荷さばき所と加工場が臨港道路で分断され安全性や衛生上も問題を抱えている。					

整備理由説明写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	薄井漁港	県名	鹿児島県
漁港概略図	写真欄① (対象工種名)				
諸浦地区(新設)					
撮影年月日 平成 31 年 2 月 8 日					
(コメント) 諸浦地区、沖側から撮影					

整備理由説明写真

事業名	水産流通基盤整備事業(特定)	漁港名	県名	鹿児島県
写真欄② (対象工種名)	諸浦地区(新設)			諸浦地区(新設)
				
<p>(コメント)</p> <p>諸浦地区倉庫裏から撮影</p>				
撮影年月日 平成 31 年 2 月 8 日				
				
<p>諸浦地区総合加工場裏から撮影</p>				
撮影年月日 平成 31 年 2 月 8 日				